

## 2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 3 月 1 日作成)

小委員会名	福祉施設小委員会	主 査 名：森 一彦 就任年月：2008 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会(施設計画運営委員会)	委員長名：松村 秀一 主 査 名：大原 一興
設 置 期 間	2010 年 4 月 ～ 2012 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	① 福祉施設の現状課題整理（現行の制度と施設の活動実態のずれなど）、先進事例研究および関連文献研究などにより、新しい展開（地域密着、小規模化、多機能化など）を検討する。 ② 施設環境づくりに関する実践的研究とその普及に努める。 ③ 上記の研究活動成果の図書出版やウェブサイトを開設する。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 森一彦（大阪市立大学）、鈴木義弘（大分大学）、橘弘志（実践女子大学）、三浦研（大阪市立大学）、古賀誉章（東京大学）、浜崎裕子（久留米大学）、隼田尚彦（北海道情報大学）、山田あすか（東京電機大学）、巖爽（宮城学院女子大学）、田中正敏（福島学院大学福祉学部）、山脇 博紀（筑波技術大学）、松田 雄二（東京理科大学）、二井るり子（奈良女子大学大学院）、石垣文（広島大学）、加藤悠介（豊田工業高等専門学校）以上 15 名	
設置 WG (WG 名：目的)	1) 福祉施設のあり方研究 WG（メンバー数：12 名、開催：4 回） ・ 「福祉コンバージョン（地域資源の福祉施設の転用）」の出版に関する編集作業 2) こども施設 WG（メンバー数：10 名、開催：4 回） ・ こどもの施設の体系と経緯を整理する。 ・ 幼稚園，保育所，こども園，認証保育所等こども施設の事例見学と勉強会を行う。 ・ 環境設定の実践例を挙げつつ望ましい環境づくりのあり方を検討する。 ・ その成果を出版する。 3) 施設環境づくり実践研究 WG（メンバー数：12 名、開催：4 回） ・ 施設環境づくり支援ネットワーク構築に関する検討会 ・ 認知症ケア分野との協賛による施設環境づくり研修会の開催	
2011 年度予算	190,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://network.kankyozukuri.com/">http://network.kankyozukuri.com/</a> （ケア環境づくり）

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料 等は除く)	1. 認知症ケア環境事典（韓国語版）
講習会	
催し物 (シンポジウム・セ ミナー・研究会・見 学会等)	
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症ケア環境事典の韓国での訳書出版：2009年4月に出版した認知症ケア環境事典を韓国で翻訳書を出版した。(2011年4月)</li> <li>2. 「地域資源の福祉施設への転用」の出版作業：22年度の福祉施設小委員会の見学会、ワーキングの作業結果をもとに、こども・高齢者・障がい者の横断的な共通課題として「地域資源の福祉施設への転用／福祉コンバージョン」を設定し、出版企画、準備を行い、24年度に出版することとした。</li> <li>3. 「こども施設の環境づくり」の出版作業：こども園の事例・計画を中心とした出版企画、準備を行い、24年度に出版することとした。</li> <li>4. 台湾の高齢者ケア環境専門家を迎えて、認知症ケア分野との協賛により、認知症ケア環境づくり研修会・見学会・セミナーを実施して、今後高齢化を迎える東南アジアとの学術交流を行った。</li> </ol>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉施設小委員会として発足から4年間で、活動の方向性検討と体制準備が終了し、WGを中心として、「地域資源の福祉施設への転用／福祉コンバージョン」、「こども施設の環境づくり」の出版を行う。</li> <li>2. 特に、委員が全国を網羅している特徴を生かして、各地域に密着した福祉施設の事例収集とその研究展開を進める。</li> <li>3. HPをさらに充実させ、委員会活動の内容を広く公開する。</li> </ol>